

JSTTの思い出

和田 洋
WADA Hiroshi
足立建設工業(株)



2002年新年早々、(株)奥村組において技術開発部に籍を置いていた私に、故木村英徳副社長から、日本非開削技術協会の事務局長をやってみないかとの誘いを受けてました。これまでJSTTとは国際会議など参加したこともあり、何度も協会事務所には出入りしていた中で、遠山啓会長からの直々のご指名だとも伺い、二つ返事で事務局長を引き受けました。しめしめ、毎年国際会議で海外出張できることを単純に喜んで引き受けた次第でした。

しかし、協会の活動や事務局長としての業務について、事前に調べる努力もしないまま着任し、前任の加藤事務局長から引き継ぎを受けました。わずかな時間の中での引継ぎでわかったことは、協会運営が大変なことになっていることでした。

協会設立から約13年の間で入会費として集めた約4千万円の資金を、毎年消費しながら運営してきた結果、私が着任した時点でわずか、500万円足らずとなっていたのです。当時の事務員さんからは「和田さん、この協会は貧乏なんだから無駄遣いはしてはいけませんよ」と毎日毎日言われ続けていましたが、節約だけで、この年度を乗り切れるものではないことがすぐわかりました。

そこで遠山会長はもちろん、次期会長として兼任されていましたが松井大悟会長との石川和秀常務理事（社日本下水道管渠推進協会、2003年6月から専務理事）にご相談させていただきながら、下記に示す、大きな運営改革を実行に移したわけです。

- ・遠山会長の専属の運転手をやめて、通勤や必要な分をタクシーで賄う
- ・女性事務員の給料を節約するために派遣会社から英語のできる事務員（近藤恭子さん）を呼ぶ
- ・季刊機関誌を専門に発刊していた担当者をやめて、自分たちの手作り機関誌にする

（これまでの編集委員にお願いし、実務の協力可能なメンバーによる編集小委員会を立ち上げて、自らの手で企画編集を行っていく）

こうしてみると、たった3行の改革ですが、大変な決意を必要としており、3名もの職員を解雇しなければならないという辛い仕事ではありましたが、松井会長のおかげで半年かけて実行することができました。

これらを軸に、総会終了後の懇親会や研究発表会など、節約できるところはすべて節約し、何とか私にとっての初年度を乗り切ることができ、低空飛行を続けながら今日に至っているものと伺っています。



写真－1 松井会長（左）と遠山会長



写真－2 遠山会長

2002年6月、JSTTの総会にて遠山会長は名誉会長に、後任には松井会長が任命されました。懇親会での二人の引き継ぎの握手です（写真－1）。

その後はISTTの代表幹事役など公式行事は松井会長が執り行われましたが、遠山名誉会長は、私が事務局長を退任し、奥村組に戻るまでの3年間、定期的に事務所に通われ、各行事に参加され、ご指導をいただきました（写真－2）。

今回の特集はNo-Dig Today 100号記念ですので、もう少し当時のことを思い出してみます。1992年の創刊号から、2002年の第40号までの季刊機関誌「非開削技術」は、云わば編集に専念したプロフェッショナルに記事内容をお任せし、編集委員会で承認するという形をとっていましたが、少しでも安価に機関誌を発刊できるよう、手作りするつもりで臨まざるを得ませんでした。幸いなことに、石川常務理事が、JSTTの副会長を兼任（2002年6月から）してくださり、編集委員長として多くのアドバイスや方針決定の判断を下さったおかげでできました。

当時の編集委員の方々（会員会社の役員が多かった）に依頼して、実務担当を任せられる委員を推薦していただき、編集企画小委員会を立ち上げました。そして委員の方々には、記事内容の検討、取材や執筆など非常に誠実に取り組んでいただき、今につながっていることを大変感謝している次第です。

初代編集企画小委員会のメンバーをここに紹介します。

田中悦郎（東京ガス）、油谷康弘（NTTアクセスサービスシステム研究所）、佐藤昌信（東電設計）、川合孝（協和エクシオ）、山本善久（コマツ）、岩田洋（芦森工業）、



写真－3

塩見昌紀（日本ゼニスパイプ）、今川明（積水化学工業）（敬称略）

このほか、印刷や広告などを請け負っていただくことになった、LSプランニングの小田専務やスタッフの方々に、大変お世話になりましたことをここに感謝いたします。

また、表紙のデザインは私がNO-DIG国際会議の開催地をスケッチした水彩画を使用してスタートしましたが、たった2号でなぜか打ち切れ、44号からは非開削技術の写真をデフォルメしたデザインに変わってしまったことは、今でも残念に思っていますが、あまり口外はしていませんでした（写真－3）。

さて、事務局長として赴任当初は毎日頭を抱えることばかりでしたが、いつまでもそんな事ばかりではいけません。仕事は「楽しくしなければ」ですね。

春から初夏にかけての会員協会の総会シーズンには遠山会長のお供をして懇親会めぐりが楽しかったです。さすが 遠山会長の人気は抜群で、カバン持ちの



写真－4 総会懇親会にて



写真－5 遠山会長と最後のゴルフ



写真－6 喜寿のお祝い

私にまで厚遇していただいたことは嬉しくもあり、大変多くの方々と話をさせていただくことができたのも、私にとって又とない大きな財産形成の場となりました（写真－4, 5）。

私の任期中に退任された遠山名誉会長の喜寿のお祝いを、キルト会（遠山会長を囲んで国際会議に参加さ

れていたブレーンの会）が中心となって開催されました。大変うれしそうにされていた遠山名誉会長の公の場にいらっしゃった最後のお姿が懐かしく思い出されます（写真－6）。

また、NO-DIG 国際会議もコペンハーゲン、ラスベガス、ハンブルグと3回視察団を組織して参加させていただきましたが、初めてのコペンハーゲンは遠山会長もキャンセルされ、通訳もいない中で立ち回ることになり、顔から火が出るほど恥ずかしい経験もしました（写真－7）。その後は、松井会長や近藤さんがご一緒されているため、私はそれなりに楽しい思いもさせていただきました。

最後になりますが、故遠山名誉会長をはじめ、松井会長、石川副会長はもちろんのこと、しっかりサポートいただいた近藤さん、また各種委員会のメンバーなど、大変多くの方々に支えられながら3年間の事務局長の大役を経験させていただいたことが、その後の私の中で大きな財産となっています。



写真－7 NO-DIG 94 コペンハーゲンにて